

(2) 保育・両立支援

■ 病児・病後児保育室「ニコニコうさぎ」



1) 保育概要

利用対象：医学部キャンパスに勤務在籍する職員・学生・
業務を委託する事業者の従業員のお子様(0歳
～小学3年生まで)

定 員：最大6名

保育時間：月曜～金曜 8時～18時

保 育 料：2000円/1日(昼食費300円)

事前登録者152名(平成23年12月末現在)



ニコニコうさぎでの保育の様子

2) 事前登録者用配布パンフレット

携帯用



島根大学医学部附属病院 病児・病後児保育室
ニコニコうさぎ
…ご利用のてびき…

(2011年10月現在)

随時登録受付中
…事前に登録が必要です…

子供が突然病気になった…仕事は休めないし、どうしよう…
そんな時は、「ニコニコうさぎ」をご利用ください。
島根大学医学部の職員・学生・委託事業者の従業員のお子様であればどこでもご利用いただけます。
看護師資格または保育士資格を有する専任の病児・病後児保育シッターが、責任を持ってお子様をお預かりします。

どこにあるの？




ワークライフバランス支援室
医学部金庫1F
「ニコニコうさぎ」

利用対象

下記3つの条件を満たすお子様が対象となります。

1. 島根大学医学部キャンパスに勤務・在籍する職員、学生及び、本学が業務を委託する事業者の従業員が保護者であるお子様
2. 0歳児(生後8週間以上)から小学3年生までのお子様
3. 病児・病後児であり、医師により集団保育が可能と診断されているお子様




受け入れ基準

ご利用の前に、必ず医師による診察を受けていただく必要があります。
「様式2-意見書」を持参しかかりつけ医を受診し、意見書に記入してもらい、集団保育可能との診断を受けた上で、保育を希望される当日、病児・病後児保育室までご提出ください。

保育の受け入れができない場合の主な判断基準は以下の通りです。

1. 医師の診断により「集団保育が不可」と判断された場合
2. 感染力の強い疾患(※第二種学校伝染病・ロタウイルス・ノロウイルス等)の急性期で、他児に感染する恐れがある場合
3. 38.5度以上の発熱が続いている場合
4. 嘔吐、下痢がひどく、脱水症状がある場合 など
(※第二種学校伝染病:インフルエンザ、麻疹、水痘、風疹、流行性耳下腺炎、百日咳、咽頭結核熱、結核)

また、医師の診断により「集団保育可」と判断されても、当病児・病後児保育室の定員を超えたり、定員に満たない場合でも他の受け入れ病児の感染症の種類によっては受け入れをお断りする場合があります。
医師の診断を受けられる前に、必ず電話にて保育室の空き状況をご確認ください。



保育概要

<定員>
ご利用は予約制とし、定員は原則6名です。

ただし予約がいっぱいになった場合や、伝染性の疾患が重なったとき、その他安全性への配慮のため、当病児・病後児保育室の判断によりご予約を受けられない場合もございます。ご了承ください。

<保育時間>
月曜日から金曜日 午前8時～午後6時まで
(休業日:土曜日、日曜日、祝祭日、年末年始、夏季一斉休業休暇)

休日のすぐれないお子様にとっての長時間保育は負担となりますので、お時間までにお迎えに来ていただけますようお願いいたします。

<保育料>
1日あたり 2000円
昼食費 300円 ※ミルク・おやつはご持参ください。

- 昼食のお申込みは、予約時にお受けします。ただし当日は午前10時以降の昼食申込はお受けできません。その場合はお弁当をご持参ください。
- 保育料・昼食費は月末締めとし、職員は給与天引により徴収させていただきます。学生、委託業者の方は振込をお願いします。内訳のわかる請求書を翌月5日までに発行します。
- 紙おむつ・イオン飲料・おやつ等、持参されなかった場合にこちらでご用意した物につきましては、当日お預りの際に美観に申し受けます。また、役員がお子様の仕物などにより悪しく持たれた場合につきましては、フリーニング代を委員で申し受ける場合があります。あらかじめご了承ください。



利用手順

1. 事前登録 ～事前に登録が必要です。
あらかじめ登録用紙をご提出いただく必要があります。
登録用紙「様式1-事前登録書」に必要事項をれもなく記入いただき、ワークライフバランス支援室(医学部金庫1F・TEL 20-2534、内線2534)または総務課「ワークライフバランス支援室ボックス」までご提出ください。

なお、お子様が4歳になられるまでは、予防接種の実施を確認させていただくため、登録用紙を年度毎に提出いただく必要があります。対象者には年度末までに登録更新の用紙をお選びします。それ以外の方は、お子様が小学3年生になられるまで、1度の登録で継続してご利用いただけます。

保育室の見学も受け付けています。
見学を希望される方は、事前に「ニコニコうさぎ」までお電話にてお知らせください。(TEL 20-2534、内線 2534/見学受付時間:平日午前9時～午後4時)

2. 予約 ～必ずお電話にてご予約ください。
ご予約は、「ニコニコうさぎ」まで直接お電話ください。

<予約受付時間>
月曜日から金曜日 7:30～18:00


<予約電話番号>
ワークライフバランス支援室 0853-20-2534、内線 2534

当日の朝、予約をキャンセルされる場合は、朝7:30以降なるべく早めにご連絡ください。
ご予約の際は、お子様のお名前、予約希望日時、病気の症状などをお知らせください。
当日朝に急遽ご利用を希望される場合は、前項と同じ時間帯にお電話で保育の空き状況をご確認いただいた上で、空きがあれば受け入れをいたします。

なお、昼食(300円)をご希望の方は、ご予約の際にお申し込みください。離乳食(初期・中期・後期)、幼児食、学童食からお選びいただけます。ただし調理の都合上、当日のお申込みは午前10時までとさせていただきます。午前10時を過ぎますと、昼食はお弁当をご持参いただくことになります。ご了承ください。

3. 受診 ～「意見書」が必要です。
病児・病後児保育室を利用されるには、必ずかかりつけ医による許可が必要です。まず病児・病後児保育室の空き状況をお電話にてご確認の上、「様式2-意見書」をかかりつけ医にご持参ください。
受診の際は必ず「意見書」を記入してもらい、医師により集団保育可能と判断された場合のみ保育受け入れが可能です。

※うさぎ保育所に保育中のお子さんが急病の際、保護者のご依頼により、病児・病後児保育シッターが 本館への受診の付添をいたします。その場合は、1回2,000円を頂きます。(ただし、お子さんが初診の場合に限り保護者の付添が必要となります。)




利用手順

4. 病児・病後児保育開始 ～持参物をお忘れなく。
「様式3-病状連絡票」をご記入いただき、その他の持参物と共にお持ち下さい。
道路側の「ニコニコうさぎ」専用入り口からお入りください。
入室されましたらお子様の様子をお聞かせください。

▽持ち物リスト (※持ち物はすべて記名をお願いします。)


<input type="checkbox"/> 様式2「意見書」 ※2日以上続けた保育は一度の病状につき一回の提出でOK
<input type="checkbox"/> 様式3「病状連絡票」 ※2日以上続けた保育は毎日提出が必要
<input type="checkbox"/> 紙おむつ(おむつが取れていないお子様のみ) 5枚 ※感染対策のため、布ではなく紙おむつをご用意ください。
<input type="checkbox"/> おしりふき(おむつが取れていないお子様のみ) 1パック
<input type="checkbox"/> 着替え 2組
<input type="checkbox"/> スタイガーゼ(乳児のみ) 3枚
<input type="checkbox"/> 食事用エプロン 1枚
<input type="checkbox"/> バスタオル 1枚、フェイスタオル 1枚
<input type="checkbox"/> 午睡用袋物(毛布・ケット等) 1枚
<input type="checkbox"/> 汚物入れ用ポリ袋 1枚
<input type="checkbox"/> 母子手帳
<input type="checkbox"/> 薬(添付の説明書もあれば)
<input type="checkbox"/> ミルク・哺乳瓶(授乳中のお子様のみ)
<input type="checkbox"/> 好きなおやつ
<input type="checkbox"/> 好きな飲み物・食べ物等あれば
<input type="checkbox"/> ※昼食のご注文をされない場合は、必要に応じてお弁当をお持ち下さい。
<input type="checkbox"/> お気に入りのおもちゃ(ビデオ・DVDの持参も可)



お問合わせ

「ニコニコうさぎ」に関するお問合わせは…

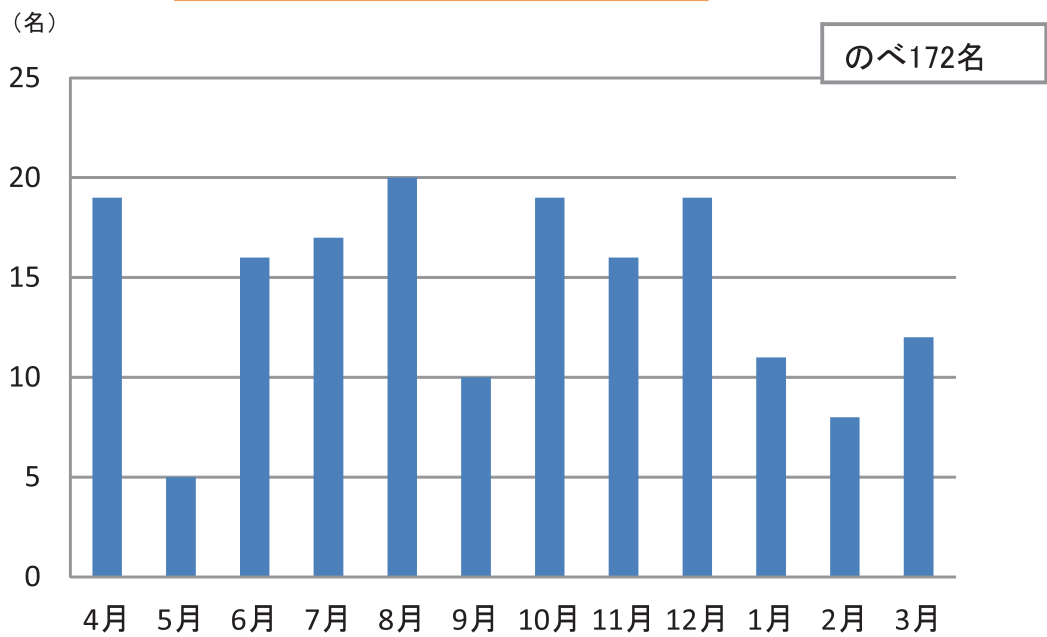
島根大学医学部附属病院ワークライフバランス支援室
Tel: 0853-20-2534 内線: 2534
mail: wlb@med.shimane-u.ac.jp まで



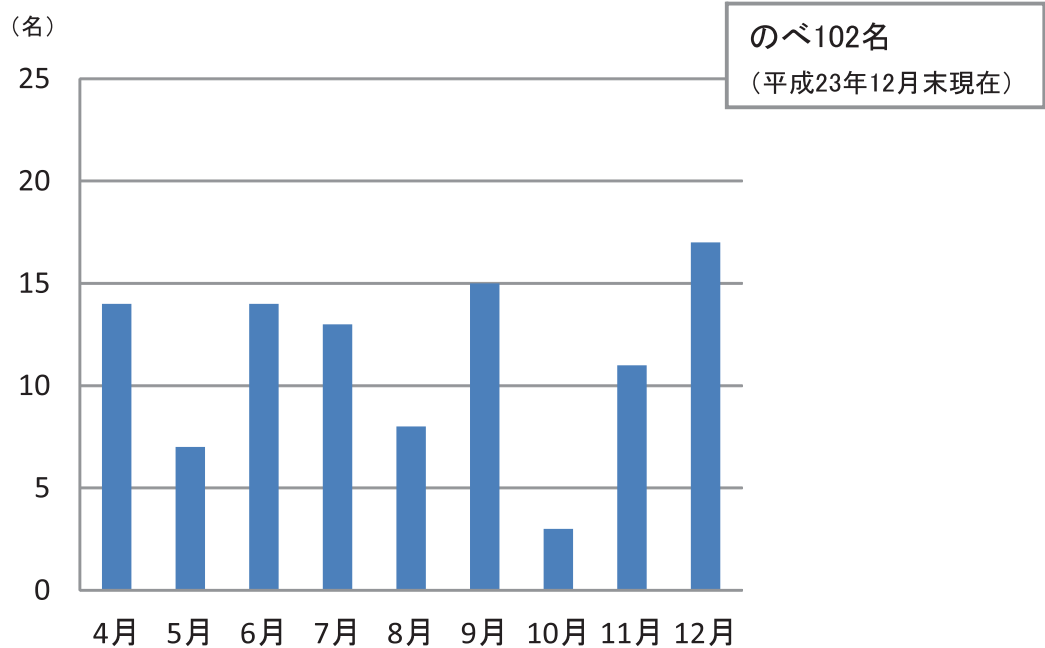
各種提出書類は、下記ホームページからダウンロードもできます。
「ワークライフバランス支援室ホームページ」
<http://www.med.shimane-u.ac.jp/hospital/wlb>

3) 平成22～23年度病児・病後児利用実績

平成22年度月別保育児数

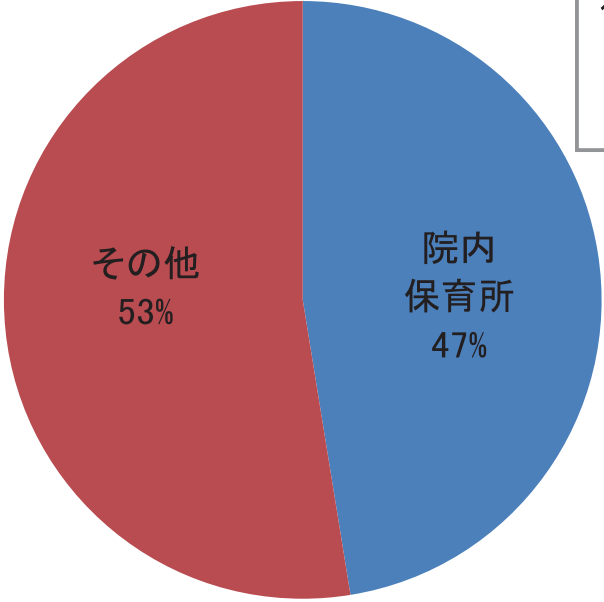


平成23年度月別保育児数



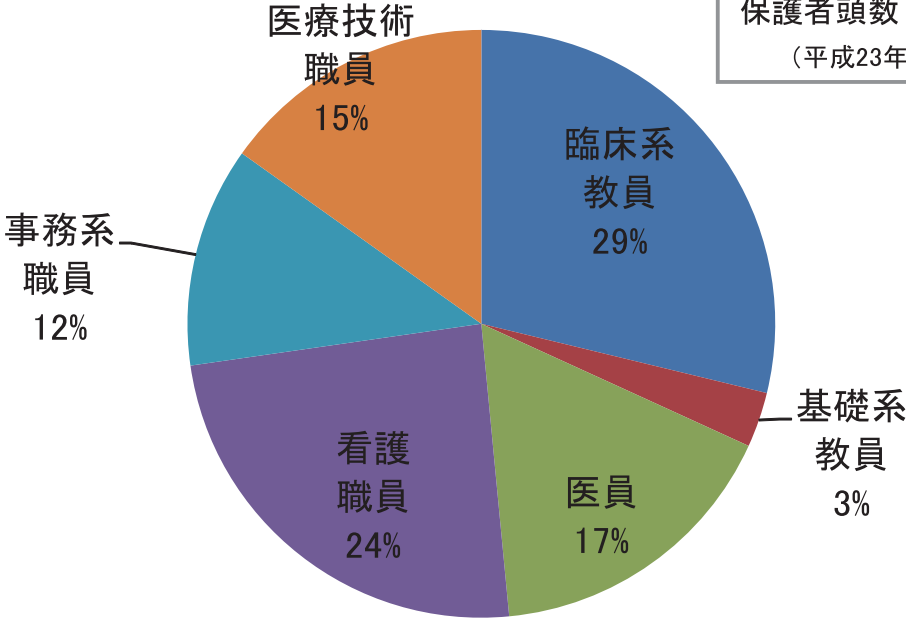
利用者の内訳

平成22～23年度
利用者総数(のべ) 274名
院内保育所通園児 130名
それ以外の児童 144名
(平成23年12月末現在)



利用者の職種

平成22～23年度
保護者頭数 66名
(平成23年12月末現在)



4) ニコニコうさぎだより

「ニコニコうさぎ」の利用者の方からいただいた感想をニコニコうさぎだよりとしてホームページ、メールマガジンに掲載しました。

ニコニコうさぎだより vol.1

支援室が生まれ変わり2ヶ月が経ちました。病児・病後児登録者数も延べ90名を超え、いざという時の備えにさせていただいております。この度、委託業者の従業員の方のお子様もお預かりできるようになりました。お知り合いで該当の方がいらっしゃいましたらぜひ登録をお勧めください。

急な病気の時にも柔軟な対応をしてくださり、とても心強い存在で本当に助かっています。スタッフの方々は看護師や保育士の資格もお持ちであり、安心して子どもを預けることができます。キャンパス内ということもあり、とても利便性がよいです。玩具や絵本、DVDなども充実しており、満足しています。うちは、おじいちゃんおばあちゃんが遠くにいるため、急な時に頼れる人がいないので、「ニコニコうさぎ」なしでは働きません！！
(看護学科 S先生より)

日頃私たちは、お子様の安全と安心・個別性を、また保護者の方の安心を心がけて保育にあたっております。何でもお気軽にご相談ください。カウンセラーの先生たちとも連携をとりながら少しでも働きやすくなるようお手伝いしたいと思います。

ニコニコうさぎだより vol.5

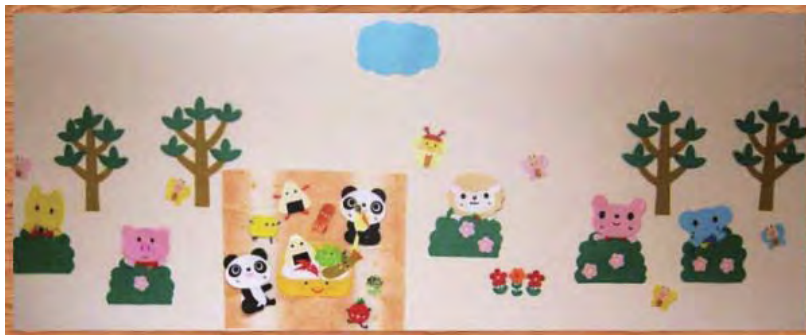
先日、「ニコニコうさぎ」利用者の方からお手紙をいただきましたのでご紹介します。

先日、ニコニコうさぎで子どもを預けさせていただきました。(・・・中略)
このような支援を自分も受けることができることに本当に感謝しています。子どもは元気なのに「ニコニコうさぎ、今度いつ行くの？」と言います。他の子もそれを聞いて自分もニコニコうさぎに行きたいと言っています。そんなニコニコうさぎが自分の身近にあることに感謝しています。一度利用しただけですが、自分も安心して働け、子どもも安心して過ごせた場であることを知ることができました。また急な病気などの時はお世話になるかと思いますが、よろしく願いいたします。

このような温かいお言葉をいただき、大変うれしく思います。働くお母さんやお父さんの手助けになっていると実感できることが、我々スタッフの大きな喜びでもあります。今後も、お子様や保護者の皆様が安心して過ごし、お預けいただける病児・病後児保育室となれるよう努力してまいります。

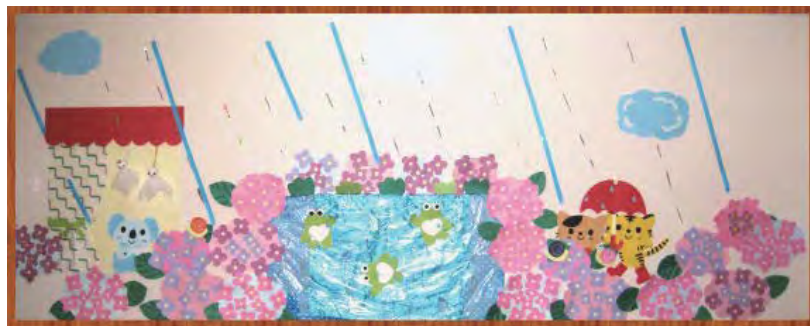
5) 保育室壁面飾り

季節ごとにスタッフが手作りした「ニコニコうさぎ」の保育室壁面飾り



春

夏



秋

冬



■学童一時保育

小学校1～4年生までのお子さまを16時～20時までの時間帯に支援室内でお預かりし、その間、教職員・学生が安心して仕事や学業に専念できるようにサポートするために、平成22年10月より開始しました。



小学生のお子さんをお持ちの教職員・学生のみなさま、お子さんが下校後や学童クラブ終了後の時間帯に仕事や講義がある時は、どうなさっていますか？保育所のような「延長保育」がない学童期になると、再び子育てと仕事(学業)の両立で悩むことも少なくありませんね。こんな「学童の壁」を乗り越えるサポートをして欲しいという教職員の方々からの声にお応えして、ワークライフバランス支援室は「学童一時保育」を実施することになりました。

「学童一時保育」は、小学校4年生までのお子さんを16時から20時までの時間帯に支援室内でお預かりし、その間、教職員・学生のみなさまが安心して仕事や学業に専念できるようにサポートするものです。

事前登録は不要です。利用ご希望の場合は、まず「[学童一時保育利用の手引き](#)」をよくお読みいただいた上で、利用日の1週間前までに利用申請書(word形式)をご提出ください。提出方法は申請書を出力の上、学内便にて「ワークライフバランス支援室」宛でお送りいただくか、申請書のファイルを添付し、下記のワークライフバランス支援室メールアドレス宛にメールで送ってください。

↑ ホームページより「学童一時保育」のページ

<利用実績>

平成22年度実績 のべ15名

平成23年度実績 のべ5名



私は小学生の娘を持つ母です。臨床医として5年間勤務したのち、某地の医大大学院に入学し研究生活に入ろうとした矢先に子供が産まれました。当時いたところには子供のいる大学院生の支援プログラムが存在せず、両親の援助も距離的に困難だったため、学業を諦めざるをえませんでした。結局暫く中小病院での勤務に戻りましたが、研究への情熱は冷めず、主人とともに越してきた島根の地でもう一度研究に身をおくことに決めました。子供も小学校に入学していましたので、楽にはなっていました。ただ、まだまだ一人で留守番させるには幼く、どの程度研究に没頭出来るかは常に不安でしたが、島根大学には臨床だけでなく研究者、大学院生をも対象とした支援プログラムがあり、大変心強く思いました。

実際に、セミナー、講義等で学童お迎えに間に合わない時等にお世話になっていますが、この支援プログラムのお陰で、本当なら諦めないといけなかった事にもどンドン出席することが出来ました。また、支援室の保育士さん、事務員さんがとても優しく、子供の目線で一緒に遊んでくださるため、子供は支援室に行くことをとても楽しみにしています。

また、私のような境遇の人間がいる、ということを理解してこのようなプログラムの運営をしてくださる方々が島根大学にはいるんだ、ということ自体が私にとってとても心強く感じられます。この支援プログラムは、子供がいても臨床、研究の分野で頑張っていきたいと強く望むお母さんの心の支えとなっていると思います。これからもよろしく願いいたします。(平成22年11月8日)

↑ 利用者の方からの感想をホームページに掲載しました。



ついに 学童一時保育を開始しました！

小学校低学年のお子さまをお持ちの方で、夕方の会議や研修会、カンファレンス、大学院の講義などに参加する際に、託児場所にお困りになったことはありませんか？「学童一時保育」は、医学部教職員・学生のお子さん（小学校1～4年生まで）を16時から20時までの時間帯に支援室内でお預かりし、その間、教職員・学生のみなさまが安心して仕事や学業に専念できるようにサポートするものです。利用に際して事前登録等は不要ですが、利用日1週間前までに利用申請書の提出が必要です。詳細はWLB支援室ホームページに掲載していますので、ぜひご覧いただき、ご利用ください。



概要

利用対象: 医学部・附属病院の教職員・学生で、公務（会議・病院業務等）や講義・研修会出席のため、お子様の保育が必要な方

保育対象: 利用者が養育する小学校1年生～4年生までのお子様

開設期間: 月曜日～金曜日（夏期一斉休業・年末・年始を除く）

開設時間: 16時～20時

保育場所: 医学部会館1Fワークライフバランス支援室内

利用料金: 300円／1時間

送 迎: 利用者の方でお願いします。



保育室

島根大学医学部附属病院ワークライフバランス支援室

お問い合わせは・・・ 電話:0853-20-2534 内線(2534)

E-mail: wlb@med.shimane-u.ac.jp

<http://www.med.shimane-u.ac.jp/hospital/wlb/>

Work-Life
Balance

■子育てサポーター養成講座

平成22年7月24日(土)・25日(日)出雲キャンパスにて、島根大学男女共同参画推進室「さぽっと」と共催で、平成22年度子育てサポーター養成講座を開講しました。本講座は、島根大学の子育て支援事業にサポーターとして参加していただく人材を養成するため、「さぽっと」が平成21年度から実施しているものです。今回は初めての試みとして、受講対象を本学職員・学生のみならず、地域住民の方々にも広げて実施しました。

2日間の受講者は28人(地域の方々:18人、医学部職員:5人、医学科学生:5人)で、このうち全プログラム受講者20人には、「さぽっと」から修了証が授与されました。そのうち6名の方に学童一時保育のサポーターとして登録していただき、実際にサポーターとしてご協力いただいています。

平成22年度 出雲キャンパス子育てサポーター養成講座				
プログラム				
日時	場所	内容	講師	
7月24日(土)	13:00～13:15	オリエンテーション	ワークライフバランス支援室副室長 津森 登志子	
	13:15～13:50	子育てサポーターの必要性と心構え(講義)	男女共同参画推進室室長・教授 澤 アツ子	
	14:00～14:50	子どもの食事(講義)	附属病院臨床栄養部・副部長 川口 美喜子(管理栄養士)	
	15:00～15:50	子どもの病気と日常生活での注意(講義)	附属病院小児科・講師 長谷川 有紀(医師)	
	16:00～17:00	子どもの体と心の発達 (DVD視聴とグループワーク)	保健管理センター松江・准教授 河野 美江(医師・臨床心理士)	
7月25日(日)	10:00～10:30 10:40～12:00	N 21番 講義室 第4実習室	子どもの安全・応急処置(講義) 心肺蘇生法と窒息の解除方法(実技指導)	地域医療支援学講座・助教 布野 慶人(救急救命士)
	13:00～14:30 14:40～16:00	N 21番 講義室	生活のリズムと環境(講義) 子どもの遊び(実技指導)	目次 知浄(保育士)



講義する澤男女共同参画推進室室長



心肺蘇生法の実技指導

子育てサポーター養成講座

受講生募集

子育て経験を活かして活躍したい方！
新米お父さん！
これからパパママになる方！
将来に備えて学生さん！



- 【期 日】平成 22 年 7 月 24 日（土）25 日（日）の 2 日間
 【場 所】出雲キャンパス 看護学科棟 2 階 N21 番講義室・6 階第 4 実習室
 【受講対象】島根大学教職員・学生及びそのご家族、地域住民のみなさま
 【募集人員】30 名（応募者多数の場合は、全プログラム受講希望の方を優先させていただきます。）
 【申込締切日】平成 22 年 7 月 20 日（火）
 【申 込 先】ワークライフバランス支援室まで、Tel 又は E-Mail でお申し込みください。
 Tel. 0853-20-2534（内線）2534
 E-Mail. wlb@med.shimane-u.ac.jp



保育に興味のある学生さん大歓迎！
ビビットカードのポイントもつくよ

平成 22 年度 子育てサポーター養成講座 -出雲キャンパス版- プログラム(予定)

7/24(土) 出雲キャンパス (看護学科棟 2 階 N21 番講義室)

13:00~13:50	子育てサポーターの必要性と心構え 男女共同参画推進室長・教授 澤 アツ子
14:00~14:50	子どもの食事 附属病院臨床栄養部・副部長 川口 美喜子(管理栄養士)
15:00~15:50	子どもの病気と日常生活での注意 附属病院小児科・講師 長谷川 有紀(医師)
16:00~17:00	子どもの体と心の発達(GW あり) 保健管理センター松江・准教授 河野 美江(医師・臨床心理士)

本講座は、島根大学の教職員・学生の子育てと仕事・学業との両立をサポートしていただく人材育成を目的として、開講するものです。教職員のご家族の方や地域住民の方で、ご自分の子育て経験を活かしながら、今後は子育てサポーターとして活躍したい！とお考えの方はいらっしゃいませんか？そのような方々には、ぜひ、ご参加いただきますようお願いください。

7/25(日) 出雲キャンパス (看護学科棟 2 階 N21 番講義室・6 階第 4 実習室)

10:00~12:00	子どもの安全・応急処置(実技指導あり) 地域医療支援学講座・助教 布野 慶人(救急救命士)
13:00~16:00	子どもの遊び(たのしいあそびの実技あり) 目次 知浄(保育士)

講座を担当する講師陣は各方面の専門家です。また、部分的な受講も可能です。子育て中の方やこれから子育てをする方、子どもが好きな学生さんも、興味のある講義・実習がありましたら、積極的にご参加ください。

受講ご希望の方は、あらかじめワークライフバランス支援室まで、お申し込みください。

2 日間のプログラムをすべて受講した方には、「子育てサポーター養成講座修了証書」を発行します。修了証書をお持ちの方は、島根大学男女共同参画推進室やワークライフバランス支援室の人材バンクに登録し、「子育てサポーター」として学内の子育て支援事業に参加していただくことができます。本講座に関する、お問い合わせは、ご遠慮なく、島根大学医学部附属病院ワークライフバランス支援室までおたずねください。



島根大学男女共同参画推進室主催



島根大学医学部附属病院ワークライフバランス支援室共催

■ マタニティ白衣の研究開発

1) 開発経緯

○ 医師用マタニティ白衣の研究開発経緯[2011.8.17]

有りそうで、無かった「医師用マタニティ白衣」

2010年秋のこと、本学附属病院の臨床系講座の事務職員の方から支援室に問い合わせがありました。医局の妊娠中のドクターのためにマタニティ白衣を探しているが、ドクター用のコートタイプ白衣(いわゆる診察着)でマタニティ用はどこを探しても見つからない、と。これまで妊娠中の女性医師たちは、お腹が大きくなると普通の白衣の前ボタンをいくつかはずしたままで着たり、男性用の大きなサイズの白衣を着たりしてしのいでいたが、見た目にも機能的にもよくない、何とかならないか、というものでした。

新たな白衣制作へ着手

支援室に寄せられた問い合わせをきっかけにして、「存在しないのなら自分たちで作ろう!」と、製作に協力してくれる白衣メーカーを探して新たに医師用マタニティ白衣を研究開発することにしました。島根大学産学連携センター地域医学共同研究部門(<http://www.med.shimane-u.ac.jp/CMRC/index2.htm>)の中村守彦教授の全面的なご協力とご指導により、雲南市(島根県)の大東白衣、広島市の日昇産業とともに共同研究という形で白衣の開発を進めて行くことになりました。この研究開発は島根大学医学部附属病院・病院医学研究費の助成を受けています。

研究用白衣の完成

試作品作りは2011年の春から開始し、これまでにVer.1からVer.6まで製作しました。実際に学内の妊娠中の医師たちに試着を依頼して意見を聞き、その都度修正・調整を繰り返しました(開発プロセスをまとめた写真集は[こちら](#)から)。その結果、8月上旬、ようやく実用化に向けた研究用白衣(Ver.7、Ver.8)が完成し、8月16日に記者発表を行いました(記者発表のようすは[こちら](#)から)。

新たに開発した白衣は、妊娠中の急激な体型の変化に応じてウエスト回りを自由に調節でき、妊娠初期から産休直前まで着用できるだけでなく、見た目にはすっきりと美しいフォルムを保つことができるように工夫しています(2011年5月30日島根大学より特許出願中)。生地には、吸湿・速乾・透けにくいなど機能的な面と、シワがよりにくく風合いが美しいなどの外観面の2要素を併せ持つ素材を選択し、白だけでなく、メディカルスタッフ用に薄いブルーも準備しました。

「マタニティ白衣レンタル制度」を開始予定

当支援室では、実用版コートタイプマタニティ白衣が完成すれば、職種や雇用形態に関わらず島根大学職員・学生の必要な方を対象に、必要な期間レンタルする制度を本格的に始動する予定です。

↑ ホームページより「マタニティ白衣の開発の経緯」のページ

2) 記者発表

○「医師用マタニティ白衣の研究開発」を記者発表しました。

ワークライフバランス支援室では、医師用マタニティ白衣を研究開発しています(詳細は[こちら](#)から)。この度、民間の白衣メーカーとの共同研究の成果として、医師用コートタイプ白衣の研究用が完成しましたので、8月16日(火)、島根大学医学部大会議室において、小林祥泰病院長立ち会いの下、記者発表を行いました。発表会場には、小林病院長を始め、産学連携センターの中村守彦教授、当支援室と白衣の共同研究を行っている大東白衣の小川愛三代表と加納恵子工場長、日昇産業の中田公彦社長のほか、マタニティ白衣の試着に協力してきた附属病院内分泌代謝内科医師の仲田典子さんと薬剤部薬剤師の三浦佳江さんが、披露用の白衣を着用して同席しました。支援室からは内田室長と津森副室長が出席しました。

今回披露した白衣は研究用に開発した「Ver.7-ブルー」と「Ver.8」です。白衣の全体的なデザインは共通ですが、ウエストのアジャスターベルトがバックルタイプ(Ver.7)かボタンタイプ(Ver.8)かの違いがあります。バックルタイプの方は、メディカルスタッフ用を想定した薄いブルーの生地で準備しました。

記者席には新聞各社やテレビ局など10社が訪れ、メディア側の関心の高さがうかがえました。会見終了後には、マタニティ白衣着用の2人の職員たちは盛んにカメラのフラッシュを浴びていました。

記者発表に出席した報道機関は下記の通りです(順不同)。

出雲ケーブルビジョン、朝日新聞、NHK松江、共同通信、読売新聞、産経新聞、島根日日新聞、山陰中央新報、中国新聞、毎日新聞

◇掲載された記事は[こちら](#)から



記者発表の様子



研究用白衣披露の様子



Ver.7 着用和三浦さん(左)と
Ver.8 着用仲田さん(右)

↑ ホームページより「マタニティ白衣の記者発表」のページ



メディカルスタッフ用 “マタニティ白衣” を開発中!

平成22年秋、「妊娠中の女性医師が快適に着ることが出来る白衣が欲しい」という本学職員からの要望をきっかけにして調べたところ、看護師のマタニティ用白衣は種々市販されていますが、医師用のマタニティ白衣がないことが判明しました。これまでの女性医師の多くは、妊娠後期になると白衣の前ボタンを外したり、男性用の大きなサイズの袖を折り返して着たりしていたのです。「なければ自分たちで作ろう!」と、地元の白衣メーカーとともに医師用マタニティ白衣の共同研究・開発を始めました(平成23年5月30日特許出願済)。平成23年8月には、市販用実用版に向けた研究開発用の白衣(研究用白衣)の完成を機に記者発表を行って披露しました。



日昇産業さん

大東白衣さん

Ver.3

Ver.4

Ver.5

Ver.4

Ver.5

Ver.6

Ver.10

Ver.10

もうすぐ
ゴール!

Ver.7

Ver.8

記者発表で披露 8.16

医師用マタニティ白衣

開発プロセス

工場見学@大東白衣

病院長へ開発開始報告

今までは・・・
前ボタンを2つはずして
着ていました!

妊娠7-8ヶ月の医師たち

学内でレンタル制度

現在学内では研究用白衣(ver. 9, 10)を使ったモニター調査中で、さらに改良を加えて来春の実用化を目指しています。実用版の白衣が完成すれば、マタニティ白衣が必要な職員へのレンタル制度を開始します。

研究者・技術者にも

当支援室が開発中のマタニティ白衣は、医師のみならず医療技術職・薬剤師などのほか、実験系の研究職や技術職、教員など広範囲の職種で利用可能です。本白衣の開発は、理工農分野の若手女性研究職・技術職への支援という観点からも社会的に大きな意義を持つものです。

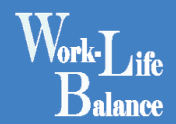
開発実務担当：WLB支援室副室長・津森登志子

開発責任者：WLB支援室室長・内田伸恵

問い合わせ先：島根大学医学部附属病院WLB支援室

TEL：0853-20-2534

E-mail: wlb@med.shimane-u.ac.jp



ついに完成しました！

スタイリッシュな コートタイプ・マタニティ白衣

島根大学医学部附属病院ワークライフバランス支援室

**医療職・研究職・教職など
白衣が必要な仕事に従事するすべての女性にお届けします！**

この白衣は、島根大学医学部附属病院ワークライフバランス支援室（島根県出雲市）・大東白衣（島根県雲南市）・日昇産業（広島県広島市）が連携し、島根大学産学連携センター支援の下産学共同で開発したものです。開発の過程では島根大学医学部および附属病院院に勤務する妊娠中の医師、メディカルスタッフや教員17人にモニターとしてご協力いただき、寄せられたご意見をもとに様々な改良を重ねた結果、ここに「ありそうで、実はなかった」画期的なコートタイプのマタニティ白衣を創り上げました（2011年5月30日島根大学より特許出願、出願番号：119862、2011年度島根大学医学部附属病院院医学研究採択課題）。本白衣は共同研究先の大東白衣と日昇産業から市販されることが決定しました（2012年4月以降）。当支援室では開発した白衣を用いて、職種や雇用形態を問わず本学の職員・学生であれば誰でも必要な時期に利用できるレンタル制度を開始します（2012年4月から）。

—こんな工夫をしています—

- ◇腹囲の変化に併せてウエストを調節することができ（～90cm）妊娠初期から臨月まで対応可能
- ◇ダブル仕立てでお腹の膨らみが目立たない
- ◇身頃の打ち合わせが深く胸元が開きにくい
- ◇透け防止・帯電防止・制菌加工した生地を採用
- ◇スリット入り・カフスつきの八分袖で折り返しやすい
- ◇大きめのポケットを採用
- ◇ステッチの効いたトレンチ風の襟とバックベルトがおしゃれ



—私たちが開発しました—

大東白衣 加納恵子・小川愛三
日昇産業 中田公彦
島根大学医学部附属病院ワークライフバランス支援室 津森登志子・内田伸恵

—開発経緯は下記をご覧ください—

島根大学医学部附属病院ワークライフバランス支援室 HP : <http://www.med.shimane-u.ac.jp/hospital/wlb/>

—本白衣の市販については下記にお問い合わせください—

日昇産業株式会社 吉島営業所 〒730-0821 広島県広島市中区吉島町2-23
TEL : 082-248-0891 FAX : 082-248-0064
大東白衣 〒690-2400 島根県雲南市大東町513-2 TEL&FAX : 0854-43-3342

Work-Life
Balance

(3) 時短勤務の提供・復帰支援

看護師や保育士の資格を活かした家庭と仕事の両立のためのフレキシブルな勤務の紹介や提供、復帰支援などを行っています。

- 中央検査部採血室にて採血担当者として短時間雇用し、採血室での待ち時間短縮に寄与しています。
(平成24年1月現在、4名が採血業務に従事)
- 病児病後児保育室にて保育シッターとして登録しています。
＜病児保育シッター(看護師)採用実績＞
平成22年度 4名(登録シッター)
平成23年度 4名(うち3年次編入看護学生3名)
(平成24年1月現在、7名が登録シッターとして勤務)
- 小児病棟保育
支援室スタッフ(保育士・看護師)が附属病院小児病棟にて保育を実施し、患児の療養の質の向上や保護者負担の軽減に寄与しています。現在は、保育士が小児科の常勤職員として採用され、小児病棟で活躍中です。

■病棟保育の活動紹介

当支援室の保育士スタッフが附属病院小児病棟でも活躍しています。各病室では手遊び、折り紙、絵本の読み聞かせ等個々に応じた保育を、ディールーム(遊びの広場)ではお子さま同士の関わりあいを大切にしながら、新聞遊び等楽しく過ごせるような活動を行っています。保育士のサポートは、患児の入院生活の質の向上や保護者負担の軽減に役立っており、大変喜ばれています。このたび、患児の療養環境のさらなる向上をめざし、ワークライフバランス支援室保育士の病棟保育担当勤務を倍増しました。今年度から月1回行われる小児病棟でのイベントもお手伝いすることになりました。今月開催予定のイベント「おんがくであそぼう♪」の様子は、次号メルマガにて紹介しますね！

(メールマガジン第12号掲載)

↑ 病棟保育士の活動をメールマガジンで紹介しました。

(4) 相談窓口

■カウンセラーによる相談窓口



カウンセラーによる相談窓口

Work-Life Balance, Career Planning, Guidance Counseling

臨床心理士による
カウンセリング

本学職員、学生であれば性別に関係なくすべての方が、臨床心理士によるカウンセリングを無料で受けることができます。

カウンセラー2名体制の充実した相談窓口となっています。また、秘密は厳守します。

☆カウンセラー来室予定
(赤色がカウンセラー来室日)

2012年2月						
日	月	火	水	木	金	土
			1	2	3	4
5	6	7	8	9	10	11
12	13	14	15	16	17	18
19	20	21	22	23	24	25
26	27	28	29			

詳しい情報はこちらからどうぞ↓(学内限定)

●カウンセラーのご紹介は[こちら](#)から

◇カウンセリング申し込み手順

- ① まずどのような問題を相談したいかを、ご自身の中で整理してみてください。
- ② [こちら](#)から相談申込書をダウンロードしてください。

↑ ホームページより「相談窓口」のページ
相談の利用方法やカウンセラーの来室日、活動報告などを紹介しています。



島根大学医学部 附属病院 **ワークライフバランス支援室**

**カウンセラーによる
相談窓口**

性別を問わず、
学生・教職員、
どなたでもご利用できます。

子育て 家族のこと
対人関係 進路相談
お気軽に
ご相談ください。

お問い合わせ・申し込みは・・・
電話：0853-20-2534 内線(2534)
E-mail：wlb@med.shimane-u.ac.jp

ワークライフバランス支援室では…「働きやすく学びやすい」環境作りにつながる
あなたのアイデアやご意見もお待ちしております！

旧「女性スタッフ支援室」は平成22年度から「ワークライフバランス支援室」と改称しました。



相談窓口のカウンセラー（臨床心理士）は、
島根大学男女共同参画推進室から派遣されています。

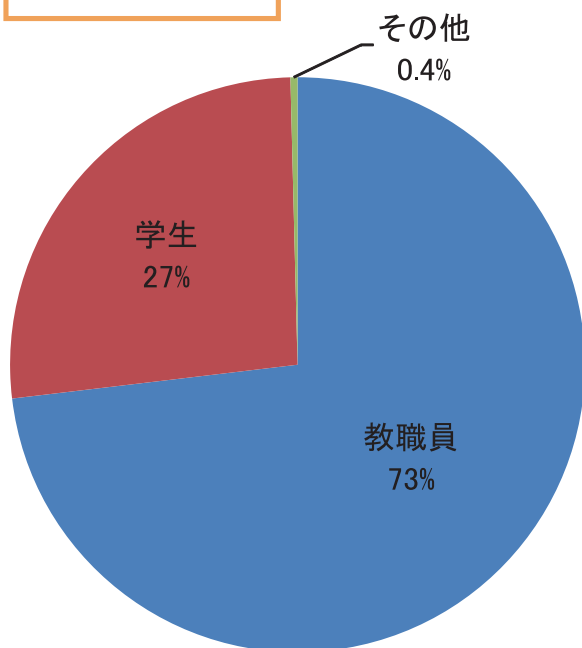
カウンセラーの来室日を支援室HPでご確認ください。
PC環境下でない方は、直接お電話でお問い合わせください。

島根大学医学部附属病院ワークライフバランス支援室
(旧女性スタッフ支援室)

↑ 相談窓口案内カード
保健管理センター・学務課・各部署の更衣室・洗面所等に設置

平成22～23年度相談窓口実績

相談者の内訳



のべ相談件数

平成22年度 174件

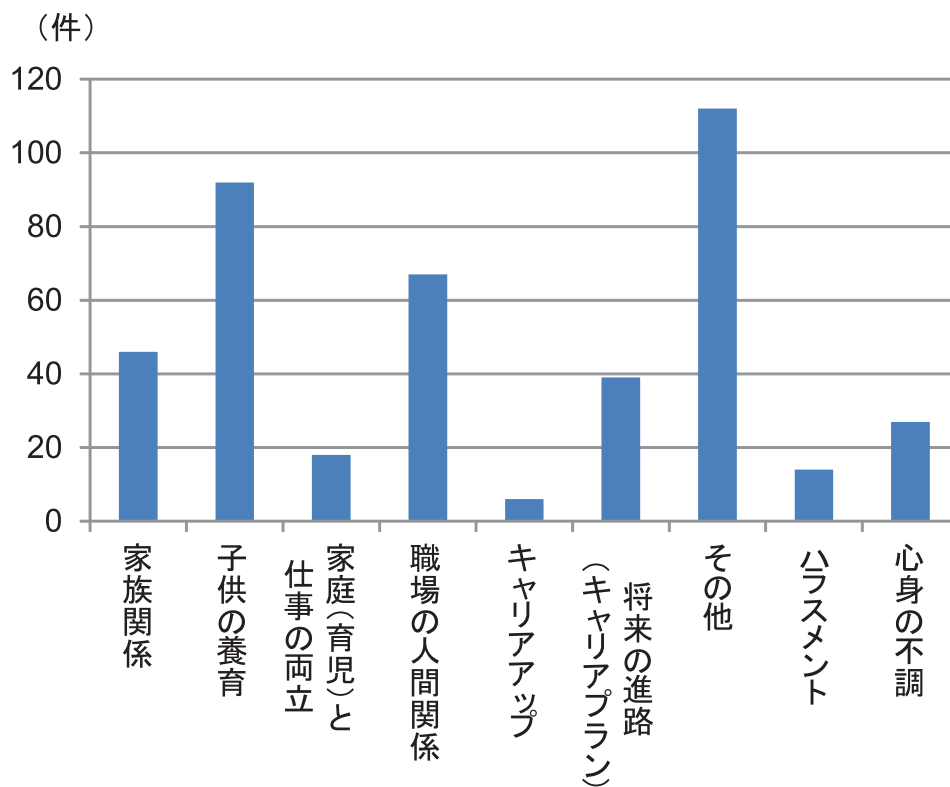
平成23年度 79件

(平成23年12月末現在)



↑ カウンセリングコーナー

主な相談内容



■看護部支援

WLB支援室のカウンセラーは、相談窓口で学生・職員からの様々な悩み相談に応じるほか、看護部の職員研修にも参加して看護師たちのストレスマネジメントをサポートしています。平成22・23年度は下記の研修に参加して講義やグループワークを行いました。

平成22年 5月27日	新卒者フォローアップ研修
平成22年 6月 3日	プリセプター研修
平成22年 6月21日	メンバーシップ(卒後2年目)研修
平成23年 6月10日	新卒者フォローアップ研修
平成23年 7月19日	メンバーシップ(卒後2年目)研修
平成23年 7月21日	プリセプター研修
平成23年 9月14日	チームリーダー研修

■各種講義

平成23年 7月20日	大学院の講義を担当
大学院医学系研究科医科学専攻修士課程 地域医療支援コーディネータ養成コース・地域医療実習1の実習講義を担当	

平成23年11月 2日	看護学科の臨地実習教員研修会に参加
実習中に気になる学生に対する支援の方法や、教員と実習指導者との連携の方法について、グループに分かれて活発に話し合いができました。立場の違う者が同じ目標に向かって関わる際に、集うこと、お互いの意見を擦り合わせることなどの重要性を改めて感じました。	



新人研修



看護学科の臨地実習
教員研修会

■ 学生相談に関わる教職員の支援

医学部内で学生さんへの対応をしている部署は複数あります。関係部署がお互いに顔を合わせることで、困っていること、補完し合えることを話せる場になれば、という思いから平成22年度より「学生相談に関する懇談会」を開催しています。

「学生相談に関する懇談会」

回	日時	懇談会のテーマ	参加人数	参加者の所属部署	
平成22年度	1	8.3	学生支援に携わる部署の職員や教員の連携の必要性	10名	カウンセラー 医学・看護学科教員 保健管理センター職員
	2	9.14	保健管理センター・支援室相談窓口での相談受付の現状	8名	カウンセラー 医学科教員・学務課職員 保健管理センター職員
	3	11.26	支援が必要な学生に対するアプローチの方法	7名	カウンセラー 医学科教員・学務課職員 保健管理センター職員
	4	1.28	学生の学年に応じた就学能力の多様性に関して異なる部署の教職員が共通理解しておくことの重要性	7名	カウンセラー 医学科教員・学務課職員 保健管理センター職員
	5	3.11	22年度の窓口の諸活動の総括と次年度の目標	7名	カウンセラー・医学科教員 保健管理センター職員
平成23年度	1	4.26	「学生相談に関する懇談会」開催の意義	9名	カウンセラー 医学科教員・学務課職員 保健管理センター職員
	2	5.31	相談窓口の利用者への支援について、より多くの部署・職員が関わりながら関わるための方策	8名	カウンセラー 医学科教員・学務課職員 保健管理センター職員
	3	6.28	学生支援に積極的に関わる教員どうしの情報交換、共通の問題意識の再確認	10名	カウンセラー・学務課職員 医学・看護学科教員 保健管理センター職員
	4	7.19	学生生活における学内施設(保健管理センター・図書館・自習室など)の利用の仕方に関して現状の問題点や改善点	5名	カウンセラー・医学科教員 保健管理センター職員
	5	8.30	入学時オリエンテーションを利用して新入生の保護者に対してガイダンスできること	5名	医学科教員・カウンセラー
	6	9.27	就学継続の手段の一つとして休学を選択した学生に関して教職員ができる支援	6名	カウンセラー・医学科教員 学務課職員
	7	10.11	学生支援に関わる教職員が工夫している学生へのアプローチの方法やそのタイミング	4名	カウンセラー・医学科教員
	8	11.15	就学困難な学生の支援に関して大学、学生、学生の保護者間で共有すべき情報とそのタイミング	8名	カウンセラー・医学科教員 保健管理センター職員
	9	12.13	部活と学業の両立に悩む学生へのサポートの仕方	6名	カウンセラー・医学科教員 保健管理センター職員
	10	1.17	事故・事件など緊急時の学生のメンタルヘルス	6名	カウンセラー・医学科教員 保健管理センター職員